

昭和医科大学横浜市北部病院 病院だより7月号

【巻頭言】 診療科長着任のご挨拶	P1
【医学講座コーナー】	P2
【病院からのお知らせ】	P3
【ご意見・ご要望】【編集後記】	P4

【巻頭言】 麻酔科 診療科長就任のご挨拶



【麻酔科 診療科長】
橋本 徳 准教授

2026年4月より麻酔科の診療科長を拝任しております 橋本 徳と申します。先代の信太賢治先生に引き続き、よろしくお願いいたします。麻酔科と言いますと、手術の時にしか現れない陰の存在だと思われていますが、まったくその通りです。やむなく手術を受けることになった患者さんの前に現れ、これまでの病歴やなんやら根掘り葉掘りしつこく聞き出し、とにかく口の中を見たがる青き衣をまとった謎の医師たち。私たちは、患者さんが手術を無事に乗り切れるように、麻酔の術を尽くして手助けをするのが主な仕事です。人類の中で、「麻酔」は一、二を争う素晴らしい発明とされています。現代の臨床医学の発展は麻酔なしにはありません。

国内では毎日5万人の方に全身麻酔が行われているのですが、実はその麻酔の原理が完全に解明されていないところが面白い！ 私は30年以上も麻酔をしてきましたが、まだまだ面白さは尽きません。私たちは知識と同じように経験や先人の教を大切にしながら麻酔の技を毎日磨いております。

麻酔科医の喜びとは「安全」です。患者さんが手術前に感じる不安を和らげ、手術中には薬剤を用いて患者さんのストレスを最大限に軽減し、手術を受ける前とできるだけ変わらない状態で手術室を出ていただくことをめざしています。患者さんが麻酔で「眠って」いる間、私たちは患者さんの体の状態を常に見張っています。

私たちの麻酔の技を上達するために、多くの若い医師たちが当院で研修しております。大学病院は学びの場でもありますので、患者さんにご協力をいただくこともあります。私たちは患者さんを「教師」として、日々学ばせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

麻酔の技は、手術中の麻酔以外にもいろいろな場面に役立てることができます。2022年から当院でも無痛分娩のサービスを始めました。人手の問題でまだ希望する皆様に全て応えることはできていませんが、安全に実施できる範囲で少しずつサービスを拡大しております。

最近、医療の世界では「多職種連携」という言葉をよく耳にします。特に私たち麻酔科医は、私たちだけではまったく仕事ができません。手術をされる外科医、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師、助産師、メンテナンス担当者、事務職員など病院を支えるあらゆる職種の方々の力が必要です。トラブルは、コミュニケーションができていない所に起きます。安全で快適な医療を行うためには、職種の垣根を越えて交流し、円滑な情報伝達を達成することが第一の必要事項です。

これからも風通しの良い麻酔科にしていく所存ですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

【医学講座コーナー】

皮膚科「日焼けについて」

日焼けとは

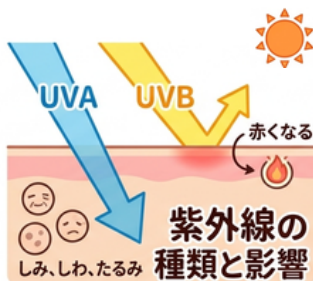
夏になると気になる「日焼け」。赤くヒリヒリする日焼けは、紫外線によって皮膚に炎症が起きている状態で、医学的には軽いやけど（第1度熱傷）に近い反応です。数日で赤みが引いたとしても、皮膚の細胞には紫外線によるダメージが残ることがあります。



紫外線について

紫外線には主にUVAとUVBがあります。UVBは赤くなる日焼けを起こしやすく、UVAは皮膚の奥まで届き、しみ・しわ・たるみなどの「光老化」に関係します。

年齢による老化だけでなく、長年浴び続けた紫外線の積み重ねが、肌の見た目に大きく影響します。紫外線は皮膚がんの原因になり得ます。



紫外線は皮膚細胞のDNAを傷つけ、長期的には皮膚がん（日光角化症、基底細胞がん、有棘細胞がん、悪性黒色腫など）の発症リスクを高めます。つまり日焼け対策は、美容目的だけでなく、将来の皮膚がんを予防するための大切な健康習慣です。紫外線対策により、日焼け、皮膚がん、しみ・しわなどの早期皮膚老化のリスクを減らせるとされています。

日焼け止めを使用方法について

日焼け止めは、UVAとUVBの両方を防ぐ「広範囲」タイプを選び、日常生活ではSPF30前後、屋外活動ではSPF30以上を目安にしましょう。

汗をかいたり、タオルで拭いたりすると落ちるため、2～3時間ごとの塗り直しが必要です。顔だけでなく、首、耳、手の甲、腕なども忘れずに塗ってください。ただし、日焼け止めだけで完全に紫外線を防ぐことはできません。帽子、日傘、長袖、サングラス、日陰の利用を組み合わせることが効果的です。特に午前10時から午後2時頃は紫外線が強いため、長時間の外出を避ける工夫も有効です。

紫外線対策について

紫外線対策は季節や天気にかかわらず重要で、曇りの日でも紫外線は地表に届きます。最近では女性だけでなく男性が日傘をさす光景をみかけますが、これはとても良いことです。

一方、日光を浴びることによる良い点もあります。日光を「適度」に浴びることによる皮膚でビタミンDが作られます。ビタミンDはカルシウムの吸収を助け、丈夫な骨を保つために大切です。ただし、日焼けするほど浴びる必要はありません。

「少し焼けるくらいなら健康的」と思われがちですが、日焼けは皮膚が紫外線ダメージを受けたサインです。毎日の小さな予防の積み重ねが、将来の肌の若々しさと皮膚がん予防につながります。今日から、無理なく続けられる紫外線対策を習慣にしましょう。

◆縄田修一准教授が「日本臨床腫瘍薬学会学術大会2026」で最優秀演題賞を受賞しました

縄田修一准教授（薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門／横浜市北部病院薬剤部）が、日本臨床腫瘍薬学会学術大会2026（JASPO2026）（3月7日～8日：福岡国際会議場）において、最優秀演題賞（ポスター部門）を受賞しました。

日本臨床腫瘍薬学会は、がん薬物療法をはじめとするがん医療に関わる薬剤師を中心に6,500名以上が所属する、がん医療に関わる薬剤師の学術団体として国内最大規模の学会です。本大会では約350題のポスター発表が行われ、その中から優れた研究として本演題が最優秀演題賞に選出されました。

受賞対象となった研究「抗がん薬血管外漏出に対するステロイド局所注射中止後の皮膚障害転帰の検討～単施設後ろ向き解析による安全性評価～」では、抗がん薬の血管外漏出時に慣例的に行われてきたステロイド局所注射を中止した場合の安全性について検証しました。後ろ向き解析の結果、ステロイド局所注射の有無は皮膚障害の悪化に影響しないことが示され、これまでの慣例的対応を再考する重要な知見として評価されました。



縄田修一 准教授

◆がんサロンを開催します

昭和医科大学横浜市北部病院

土曜日がんサロンのお知らせ

「がんばってきた自分に、少し優しくなる日」
～がんばりすぎないための小さなヒント～

がんサロンとは、誰でも気軽に自由にお話が出来る交流の場です
お話と軽い運動で、心と体をほぐす午後。ご家族も一緒に気軽ににお越し下さい

- 日時：2026年7月4日（土）14時～16時
- 会場：中央棟9階大会議室（途中参加・退席自由）
- 申込：不要（直接会場にお越しください）

*どなたでもご参加ください お子様連れもOKです
*動きやすい服装 水分の持参をお願いします

ミニレクチャー
14:00～
「がんとの向き合い方」
講師：久保田 祐太郎 先生
（腫瘍内科医師）




15:00～
「リラックスヨガ ～呼吸とともに私により添う～」
講師：Takako
（全米ヨガアライアンスRYT500時間修了）
（シニアヨガ指導者養成講座修了）
（メディカルヨガ指導者養成講座修了）



お問合せ：昭和医科大学横浜市北部病院 がん相談支援センター
045-949-7000

～土曜日がんサロンのお知らせ～

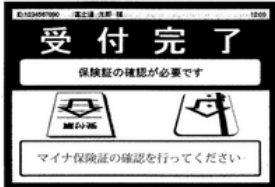
2026年7月4日(土)14時～16時に
がんサロンを開催します。

テーマは、
「がんばってきた自分に、少し優しくなる日」
～がんばりすぎないための小さなヒント～
です。

お申し込みは不要です。
当日は、動きやすい服装でお越しください。

日時：2026年7月4日(土)14時～16時
場所：昭和医科大学横浜市北部病院
中央棟9階 大会議室

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答
再来受付機で受付をした際、「保険証の確認が必要です受付窓口へお越し下さい」と表記されていますが、「マイナンバーの受付（確認）をしてください」とかにしてほしい。	この度はご不便をおかけし申し訳ありませんでした。いただきましたご指摘を踏まえ、表示内容について修正いたしました。【※右記参照（修正後）】今後も分かりやすいご案内に努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。 （回答部署：医事外来課） 
パソコンの操作をしながら、ナースカートを押して歩いて来る看護師さんをよく見かけます。 「歩きスマホ」と同じではないでしょうか。	この度は、ご不快な思いとご心配をおかけし、申し訳ありませんでした。 ご指摘のとおり、パソコンを操作しながらの移動は大変危険な行為であり、あってはならないことと認識しております。 今回のご指摘を受け、全スタッフに対し、移動時の機器操作禁止および安全確認の徹底を改めて指導いたします。 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。 （回答部署：看護部）

編集後記

7月といえば、七夕を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。北部病院のロビーでも笹に飾られた短冊を目にしたことがある方もいるかと思います。飾られた色とりどりの短冊には、それぞれの願いが込められ、日本の夏の風物詩として親しまれています。七夕の由来にはさまざまな説がありますが、元々は願いを込めながら学びや物事の上達を祈る行事として広まったとも言われています。忙しい日々のなかでは、目の前のことに追われがちですが、七夕を機会に自分の願いや目標をあらためて思い描くと気持ちを整えるきっかけになるかもしれません。

7月を迎え暑さが増し本格的な夏を迎えます。こまめな水分補給をし、休息を取りつつ、暑い夏を元気に乗り切りましょう。

（薬剤部 磯崎 遥 助教）

【受付時間・休診日】

受付時間/初診 月～土 8時30分～14時00分 ※11時00分～14時00分は事前予約制です。
 受付時間/再診 月～土 8時30分～17時00分 ※当院の再診は予約制です。
 面会時間 各病棟で異なります。詳しくはホームページをご確認ください。
 休診日 日曜、祝日、創立記念日（11月15日）、年末年始（12月29日～1月3日）
 ホームページURL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

【診療担当医表】



北部病院だより 第217号（2026年7月1日発行）発行 昭和医科大学横浜市北部病院
 発行責任者 坂下 暁子（昭和医科大学横浜市北部病院長）編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）
 〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 電話045-949-7000(代表)
 北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

